

算数科学習指導案

日 時：平成 29 年 1 月 27 日（金）5 時間目

場 所：坂本小学校 4 年 3 組教室

授業者：田口 直幸

1 単元名 「小数と整数のかけ算・わり算」

2 単元目標

【関】小数に整数をかける計算のしかたを理解し、日常生活に進んで活用しようとする。

【考】小数第一位までの小数を 0.1 のいくつ分と考える。

【技】・小数に整数をかける乗法、小数を整数でわる除法を立式したり計算したりすることができる。

・何倍かを求める問題を、整数や小数を用いて表すことができる。

【知】小数に整数をかける乗法、小数を整数でわる除法の意味や計算原理、筆算方法を理解している。

3 指導の立場

(1) 教材観

本単元の主なねらいは、次の通りである。

(学習指導要領解説 算数編A(5)小数の仕組みとその計算)

(5) 小数とその加法及び減法についての理解を深めるとともに、小数の乗法及び除法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。

ウ 乗数や除数が整数である場合の小数の乗法及び除法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。

これまでに、小数が整数と同じ仕組みで表されていることを学習してきた。また、小数の加法及び減法の計算は、整数部分と小数部分に分けられることや、数を相対的に見たり、位ごとに計算したりすることで、整数と同じように計算ができることを学習してきた。本単元では、乗数や除数が整数である場合についての小数の乗法及び除法の計算原理と、その意味を理解させるとともに、筆算で計算できるようにしていく。

単元の構成としては、まず小数×整数について学習する。位が下がっても、単位小数の幾つ分と見ることで、整数×整数の計算に帰着できることを基に、乗法の計算を筆算でできるようにしていく。その後、小数÷整数の除法について学習する。ここでも、単位小数の幾つ分と見ることで整数÷整数の計算に帰着できることを基に、除法の計算を筆算でできるようにしていく。また、小数倍についても学習し、何倍かを表すときに小数を用いることも理解させていく。

この単元が、乗数や除数が小数の場合の乗法や除法の学習へとつながっていく。見方を変えることで整数化していく考えを大切に学習を行っていききたい。

(2) 児童観

男子 17 名、女子 14 名、計 31 名の学級である。算数の学習では、習熟度別少人数指導を行ってきた。事前のレディネステストの際に、子どもから希望をとり、希望者の中から 7～8 名を教師側が選出し『じっくりコース』として少人数教室で指導し、残りを『どんどんコース』として教室で指導する学習形態をとっている。『じっくりコース』では個別指導をていねいに行い、『どんどんコース』では仲間との教え合いを行うことで、学力の定着を図ってきた。

子ども達は、休み時間に仲間と外で遊んだり、大きな声で歌ったりと、元気の良い姿が多く見られる。授業中の発言については、導入の「分かっていること・聞いていること」や、問題の解答を答えることはできる。だが、説明するとなると、自分の考えをノートに書くことができても、自信がもてないことや恥ずかしさからなかなか発言をすることができない子はまだ多い。できた所まで話すことを大切にしながら、自分の考えを表現できる子にしていきたい。

(3) 指導観

本時は、「帯小数÷整数（1 位数）の計算の仕方を考える活動を通して、被除数を 0.1 の幾つ分と見れば整数÷整数に帰着して考えられることに気づき、筆算で計算することができる。」ことがねらいである。

はじめに、数直線を基に除法の立式を行う。数が拡張されても除法といえることを立式の根拠を基に確認する。その後、小数÷整数の計算の仕方を考えていく。0.1 の幾つ分を基にして考えれば、整数÷整数の計算に帰着できることを大切にしたい。

また、位ごとに計算する考えから筆算形式へとつなげていく。7.2÷3 を筆算で計算したときに、整数部分を計算した後の 12 は 0.1 が 12 であることをおさえるとともに、小数÷整数の筆算の仕方を理解できるようにしていく。

4 学習計画（全 14 時間）

第 1 次	小数×整数	… 4 時間
第 2 次	練習 1	… 1 時間
第 3 次	小数÷整数	… 4 時間（本時 1/4）
第 4 次	あまりのあるわり算	… 1 時間
第 5 次	わり進みの計算	… 2 時間
第 6 次	小数と倍	… 1 時間
第 7 次	きほんのたしかめ	… 1 時間

